

自己評価結果公表シート（R6年度）認定こども園 長栄幼稚園

1、本年の教育目標

基本的な生活習慣を身につけ、豊かな情操を養い、健康で明るく伸び伸びとした子どもを育てる。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

園児の安全と安心を第一に、子どもの自主性と協調性を高めることを目標に集団教育を重点的に実施する計画を作成する。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評 価 項 目	取 組 状 況
保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の指導計画をもとに、月案・週案を作成し計画的な保育を実施する。 ・ 毎日、朝礼時当日の保育の確認と注意すべき内容を確認する。 ・ 毎日実施する職員会議時に、その日の出来事等を報告し合い情報の共有を図る。また、毎水曜日には各クラスの様子や困りごとなどの意見を出し、園児一人ひとりにクラスを超えて細やかな対応をする。 ・ 昨年度の行事实施内容の検討結果から、今年度は出来るだけ実施する方向で検討した。
教育の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参観日・運動会・生活発表会・作品展等、学年別に時間を分けて実施していたものを以前の方法に戻し、年長・年中・年少児の成長の違いを保護者にも確認できるようにした。 ・ 教育目標・計画を分野別（体育遊び・お絵かき・製作・文字数字）、年齢別に検討した。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月園だより・クラス便りを作成し、行事・うた・絵本・保育内容等をきめ細かく知らせる。 ・ 園の様子や個々の子どもの様子を保護者に知ってもらう機会としている保育参観と個人懇談を通常の形で実施し保護者との連携に努めた。 ・ けが等をした場合、電話や連絡帳等を使いこどもの様子を伝える。 ・ 地域の行事も復活し交流に努めた。
研修への参加	<p>大阪府や大私幼の研修を中心に対面研修・Web研修会等に積極的に参加し自己研鑽に励む。</p>
食育と健康 安全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児のアレルギー情報等を一覧表にまとめ、全職員が確認できるようにしている。 ・ 入園児には園内の見学をし、園内の気を付けなければならない場所や遊具の遊び方（危険な遊び方）等を園児に教える。 ・ 全園児に対して、危険な遊び方や場所について絵カードなどを使い、分かりやすく具体的に知らせてケガを極力防ぐよう対策をしている。 ・ 毎日の職員会議時に、園児の病気やケガの状況を報告し、安全対策に問

	<p>題がないか検証している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策で、夏の時期の集団送迎は中止した。 ・園児の体調を常に観察して定期的なタイミングで水分補給や休息をとることを徹底した。 ・さまざまな保育の状況を設定した中で、毎月避難訓練（火災・地震）を実施して、その都度課題を話し合い実際の災害に備えている。 ・三代栄養素について学んで、それぞれの食材の大切さを知りバランスの取れた食事をすることの大切さを説明している。 ・日本伝統の季節の料理を、給食や行事をとって知らせて食に興味をもってもらおう。
小学校との接続	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前の年長児は、小学 1 年生のクラスに入り一緒に授業を受けれることができ、こどもたちの進学する不安を解消し期待期待を持てるようになった。 ・進学に配慮があるこどもの保育中の姿を保護者同意の下小学校の先生に見てもらった。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放や自由登園を復活させ、就園前のこどもと在園児は交流できる場を作り、就園前の子供に幼稚園の楽しさを感じてもらい、保護者とのコミュニケーションも図っている ・年 1 2 回のキンダーカウンセリング（子育て相談）の日を設定し、臨床心理士の先生が保護者や地域の子育て相談を受けている。 ・未就園児の親子教室を年 2 5 回 2 コース実施し、1.5 歳児の親子体操教室を年 15 回実施している。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

年間計画に添った行事などが実施できるようになり、毎日の職員会議の報告・話し合いをするなかで客観的かつ具体的に自らの保育教育ができた。
先生同士のコミュニケーションが円滑に行われ、より良い保育へと展開することができた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
コロナウイルス 感染防止期間中 の子供への影響	異年齢の交流など子ども同士のふれあいが出来るようになったが、コロナ対策で人と触れ合うことができなかつた子どもたちの対応が難しい。人との触れ合いが難しい子どもたちが増えてきているように思われ、友達関係の構築を中心に自主性協調性を高めていかなければならない。

6、学校関係者の評価

特になし